

第1章 瀬戸内市の概要

1. 自然的・地理的環境

(1) 位置

本市は、岡山県の東南部に位置し、総面積は 125.46 k m²、西は岡山市、北・東は備前市に接し、南は瀬戸内海に面しています。

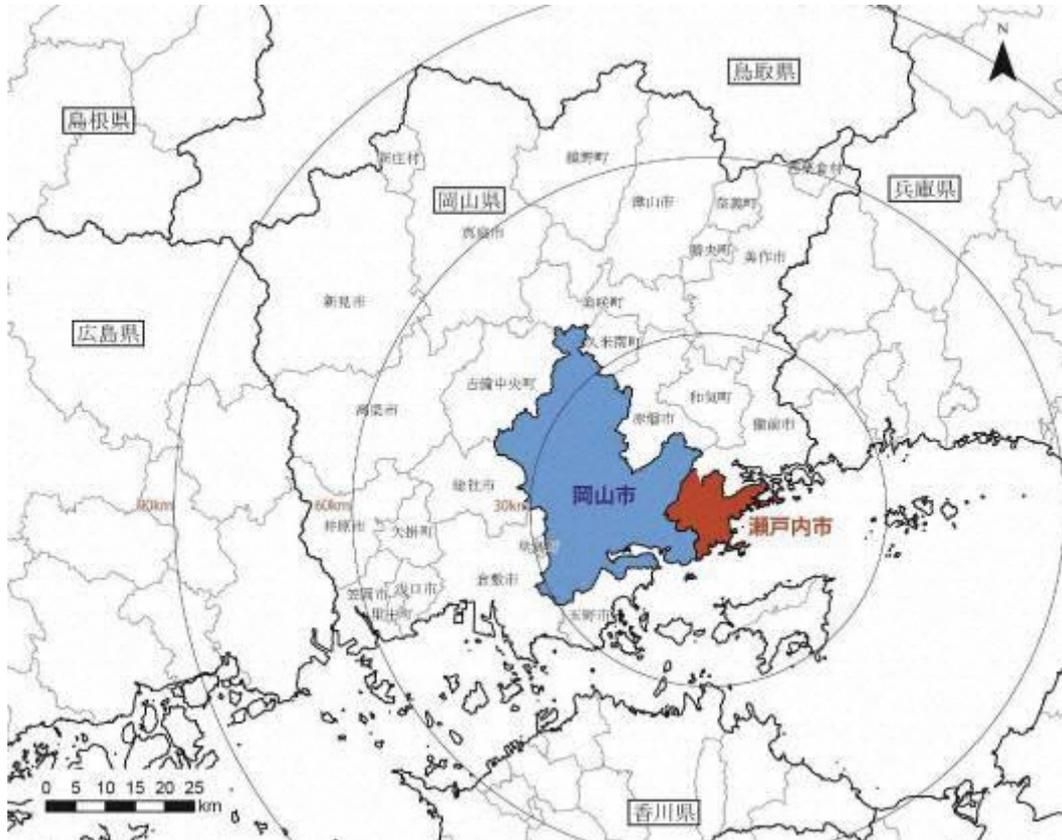


図4 瀬戸内市の位置

(2) 形成過程

うしまと 牛窓町、おおく 邑久町、おさふね 長船町の3町が平成16年(2004)の合併により一つの市になり、現在の瀬戸内市が形成されました。

過去の経緯をさかのぼると、牛窓町、邑久町、長船町は、昭和27年(1952)～30年(1955)の期間に、明治期頃の村が合併したことにより形成されました。



図5 瀬戸内市の地域区分

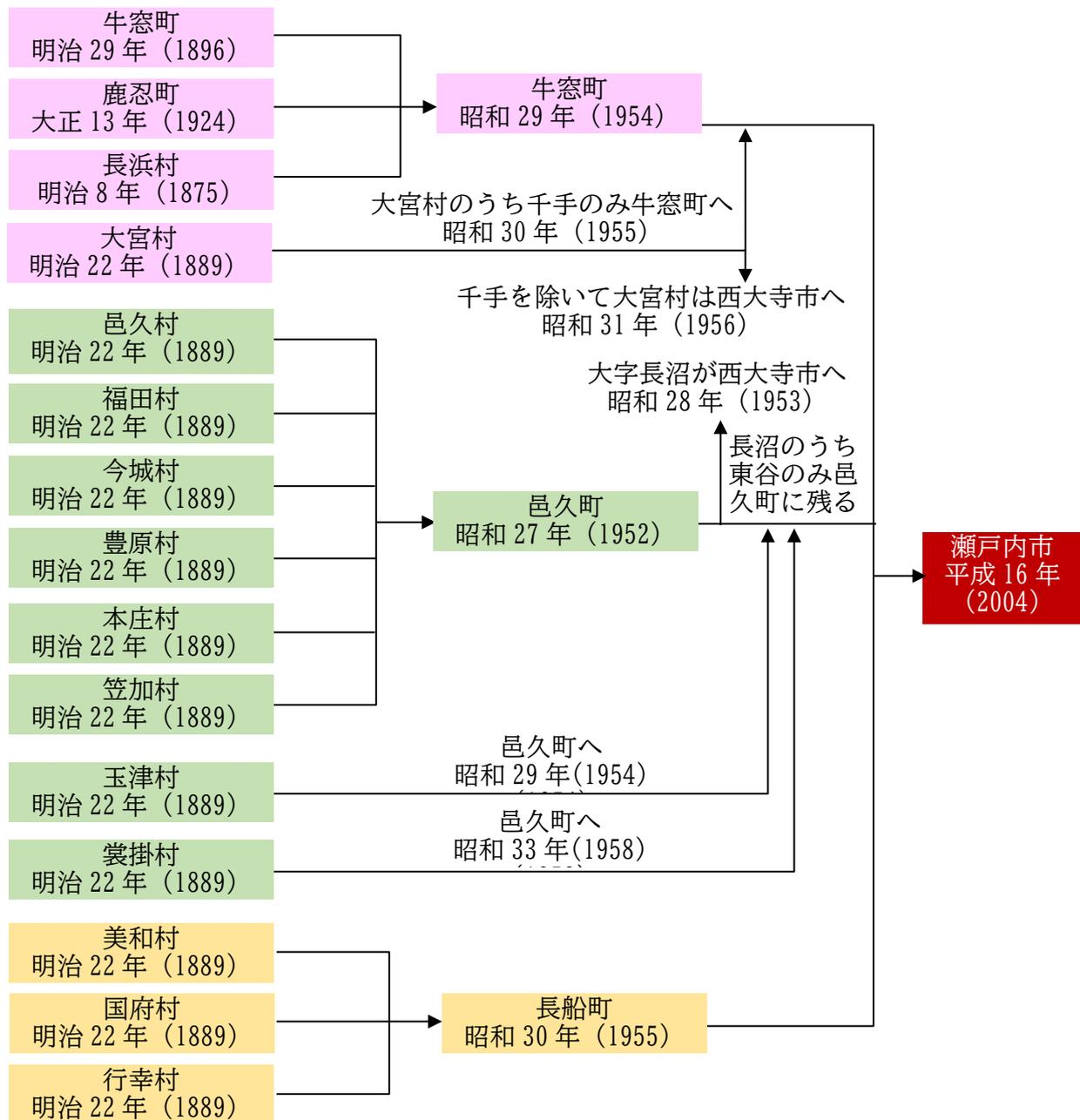


図6 瀬戸内市の形成過程

(3) 気候

本市の気候は、温暖・少雨のいわゆる瀬戸内海式気候に属し、雨が少なく、温暖な地域です。

平成3年(1991)から令和2年(2020)の30年間における年平均気温は15.1℃、年間平均降水量は1150.6mmとなっています。



図7 本市の気候

出典：気象庁、平成3年(1991)～令和2年(2020)における虫明気象台での観測値での平年値

(4) 地形・地質

【地形】

市域の北西には吉井川をはじめとして、その支流の干田川・香登川が流れ、これらの河川は砂礫を堆積させて長船平野を形成しています。その南の邑久市街地付近は、千町川が作る千町平野が広がっています。かつて錦海湾でみられた塩田は、締切り堤防が作られ干拓地となっており、海拔0m以下の土地が広がっています。

瀬戸内市で最も高い山は西大平山(326.8m)で北部の備前市との境に位置しています。この付近には、伊坂峠をまたいで東大平山(301m)があります。干田川最上流の荒池から南には、四辻山(260.3m)から東北東に延びる細長い山地が形成されており、その稜線は備前市との境界になっています。牛窓地域の瀬戸内海沿岸部には、標高150m前後の丘陵地があり、その頂上は起伏が緩く、ここは瀬戸内面Ⅱに対比される更新世の侵食平坦面です。

瀬戸内海には、大きめの島として前島や長島などがありますが、いずれも東北東～西南西に細長い形をしています。四辻山付近の山地や、千町川の上流の流路方向、伊坂峠付近の谷の方向など、いずれも同方向を示しており、地質時代の断層が浸食されてできたものと考えられます。

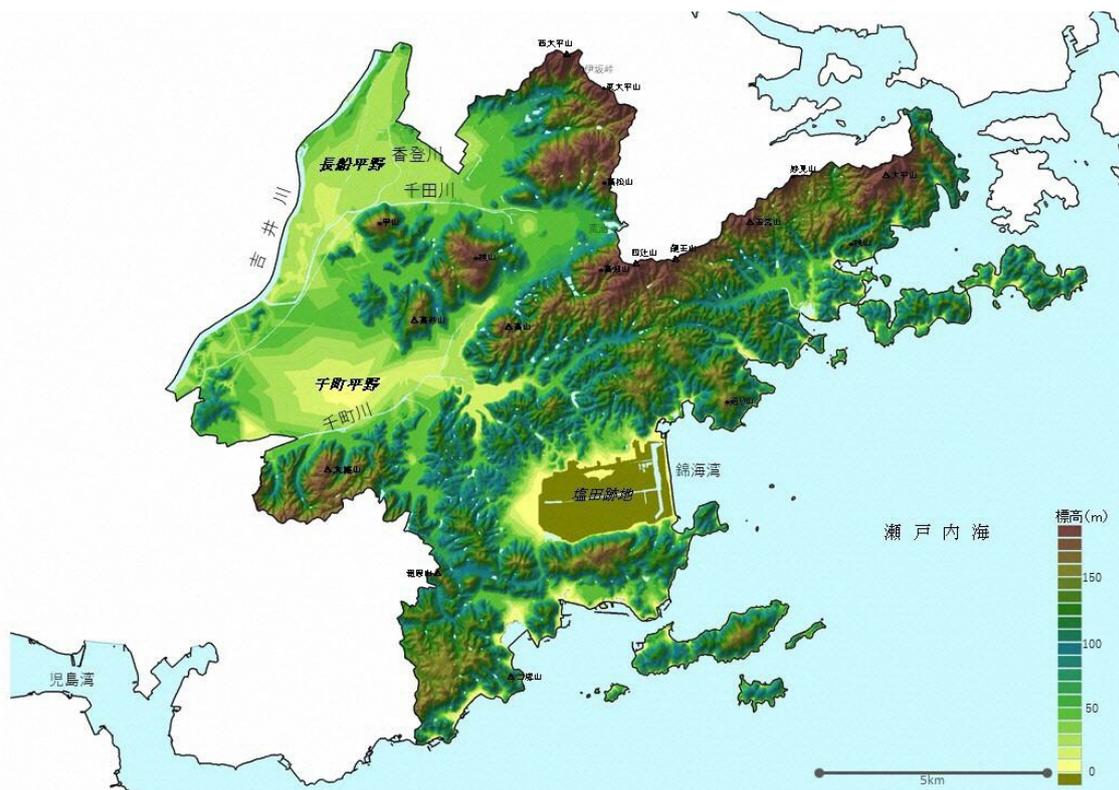


図8 瀬戸内市の地形図

出典 国土基盤情報数値標高モデル：10mメッシュ標高を使用



写真 千町平野と邑久町市街地（大雄山から北方向）

【地質】

瀬戸内市域の最も古い地質は、邑久町東部から長島にかけて分布する古生代ペルム紀の堆積岩類（地質図記号：Pr）です。これは、日本列島の基盤岩類のひとつである超丹波帯の一部で、約2億7千万年前頃に形成された付加体です。砂岩や泥岩の互層からなる海溝堆積物から構成されています。

このペルム系を覆って中生代白亜紀の凝灰岩類（Cv）が、丘陵部や東部から北部の山地に分布しています。また、この凝灰岩層中に砂岩・泥岩からなる堆積岩（Cvs）が挟まれていることがあります。Cvは流紋岩質のマグマが、カルデラを形成した大噴火による産物です。この火山活動の休止期に、カルデラ内部の湖に堆積が起こりCvsを形成しました。伊坂峠のCvsからは、植物の化石が見つかっています。また、この凝灰岩は石英や長石を多く含んでいるため、牛窓北方では、風化によってできた土が陶土として古くから利用され、須恵器などが作られました。さらに、この凝灰岩層や超丹波帯の地層などには、花崗岩（G）や閃緑岩（Ci）などの深成岩体が貫入しています。瀬戸内海沿岸部の花崗岩は、石材として利用され、前島では徳川期大阪城築城時に石垣用として切り出されていました。

長船町東部の荒池から東大平山の山麓には、主に礫岩からなる古第三紀の堆積岩類（P）が分布しています。吉備高原に広くみられる、いわゆる山砂利層（吉備層群）に対比される地層です。また、前島の南西部にも小規模な古第三系（P）があり、前島層と呼ばれています。前島層は、対岸の小豆島や豊島に分布する土庄層群に対比される海成の地層で、貝殻等の化石を多く含みます。

以上の山地や丘陵地を作る地質を、吉井川やその支流などが形成した未固結の河川堆積物（A）が覆って沖積平野を形成しています。

第1章 瀬戸内市の概要

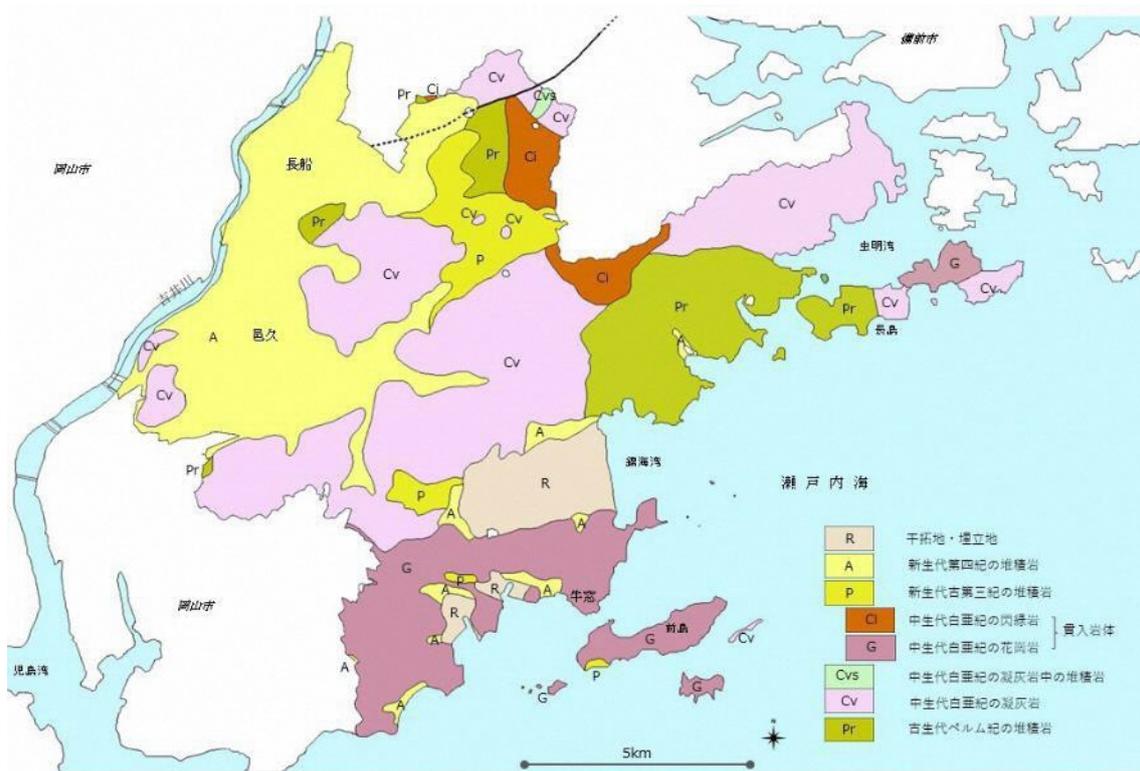
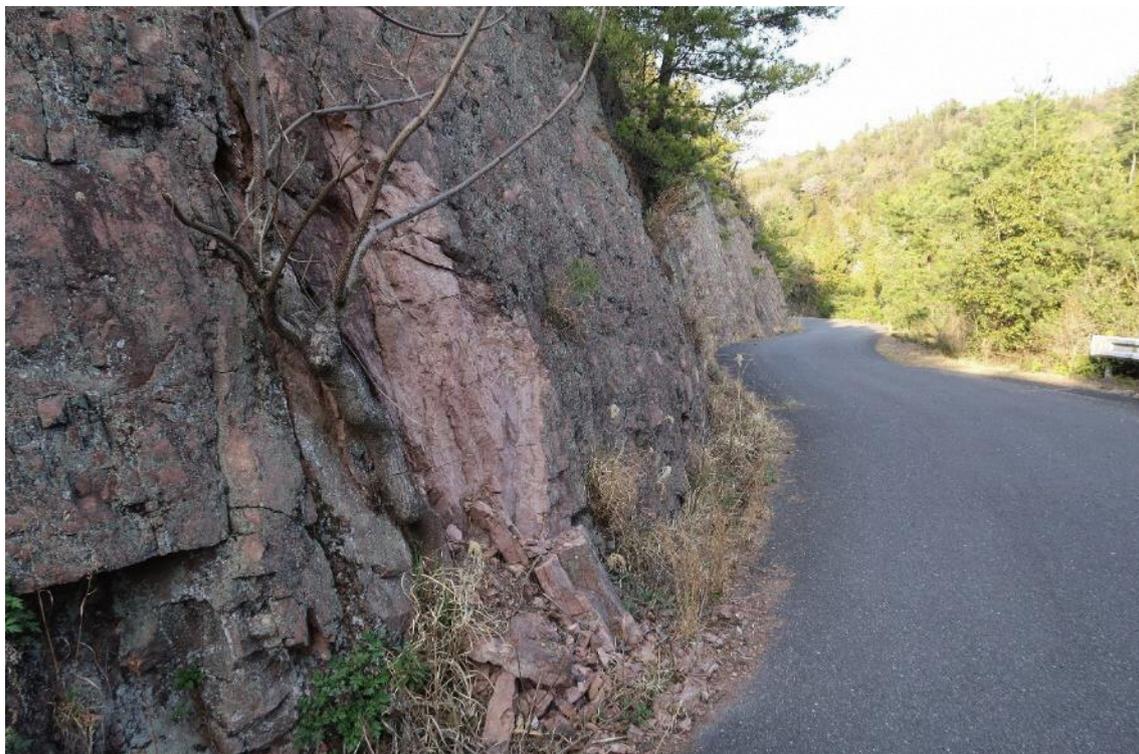


図9 瀬戸内市の地質図（20万分の1日本シームレス地質図V2を改編した）



大雄山の山道に露出している赤色の凝灰岩層 (Cv)



東大平山南麓の白亜紀に貫入した閃緑岩体 (Ci)

(5) 動物・植物

本市の丘陵部には、常緑広葉樹二次林や落葉広葉樹二次林が多く見られます。

東部の海岸線一帯は、長島、木島、段島、立花海岸、瀬溝南海岸、前泊海岸、木島海岸、敷井海岸などの自然景観に恵まれ、瀬戸内海国立自然公園に指定されています。牛窓町の^{かぶらぎ}蕪崎は、一帯が第二種特別地域に指定されています。隣接する牛窓神社には環境省の特定植物群落に選定されている優れた自然林（ヤマモモ・クロガネモチ林）がみられ、適正に保護されています。

牛窓の沖合約 300mに位置する前島は、アカマツを中心とする良好な自然林景観を有しており、島の周囲のほとんどが自然海岸となっています。島東部は良好な森林景観、自然海岸がみられ保安林に指定されています。

動物については国の天然記念物であるアユモドキが、平成 16 年（2004）の調査で香登川にて生息が確認され、続いて平成 24 年（2012）に邑久浄化センター内ビオトープ、平成 25 年（2013）には干田川で確認されています。また香登川では国内希少野生動植物種に指定されるスイゲンゼニタナゴの生息が確認されています。

その他、蕪崎の北側の公園区域外には塩性湿地及び採草地から成る塩田跡地が広がっており、貴重な昆虫類、塩性植生を有する湿地として、環境省の特定植物群落、重要湿地 500 に選定されています。長島は虫明湾の南西に位置し、公園区域外ですが、良好な自然林景観と自然海岸が保たれています。

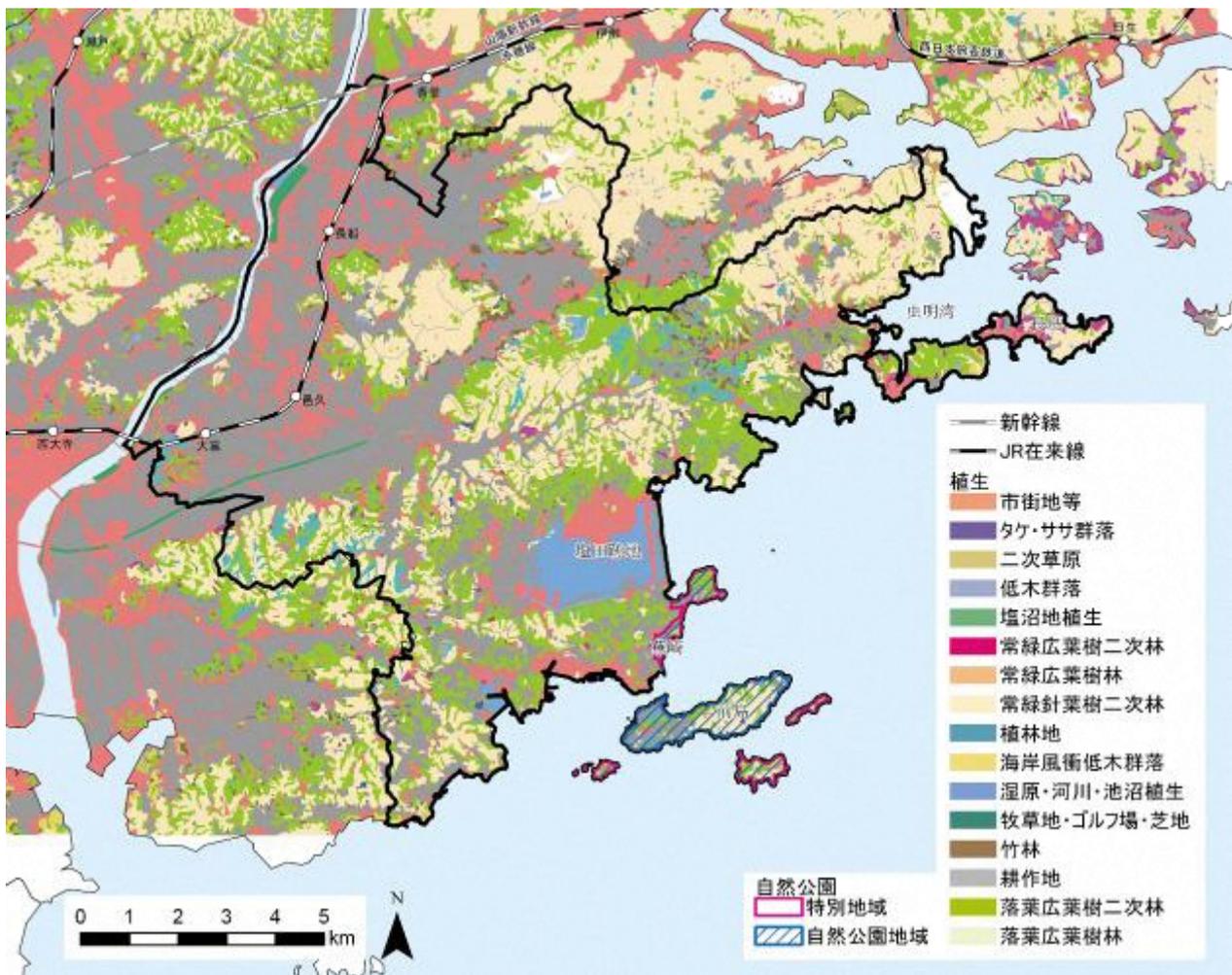


図 10 植生区分図

出典：1/25,000 植生図 GIS データ(環境省生物多様性センター、第 6・7 回植生調査(平成 11 年(1999)～平成 24 年(2012)・平成 25 年(2013)～))を使用し作成

(6) 景観

本市には、「日本のエーゲ海」と謳われる美しい瀬戸内の多島美をはじめ、千町平野の雄大な田園地帯、緑豊かな丘陵など、自然と人々の営みによる豊かな景観が形成されています。丘陵地や平地、島々など、多様な地形に富み、豊かな眺望景観が望めます。

また、一遍上人絵伝にも描かれた長船地域の「福岡の町並み」や、港町として栄えた牛窓東部の「しおまち唐琴通り」など歴史的な町並みが江戸時代からの面影を残しています。

このような雄大な自然、地域らしさを醸し出す歴史・文化など個性豊かな景観が多くあります。

四季折々の表情を見せる多彩で多様な自然景観

- ・ 吉井川
- ・ 千町平野
- ・ 虫明のカキいかだ
- ・ 牛窓の夕陽
- ・ 牛窓オリーブ園 等



千町平野

地域の奥深さや趣を感じさせる歴史景観

- ・ 福岡の町並み
- ・ 餘慶寺
- ・ 街角ミュゼ牛窓文化館
- ・ しおまち唐琴通り
- ・ 常夜灯 等



しおまち唐琴通り

地域の風土に根ざした個性豊かな住景観・生活景観

- ・ 風情豊かな農村景観
- ・ のどかな漁村の風景
- ・ 緑豊かな住宅地景観
- ・ 海沿いの個性的な住宅地景観 等

まちの骨格となる公共施設の景観

- ・ 岡山ブルーライン
- ・ 地域性豊かな牛窓の街路景観
- ・ 道の駅 一本松展望園
- ・ 瀬戸内市役所
- ・ ミティリニ広場
- ・ 牛窓ヨットハーバー 等

表4 個性豊かな瀬戸内市の景観

出典：瀬戸内市景観計画

2. 社会的環境

(1) 人口動向

○人口・世帯数の推移

人口は、平成12年（2000）以降、減少傾向にあり、令和2年（2020）時点で36,048人となっています。

年齢3区分別人口は、平成2年（1990）以降、65歳以上の人口割合が一貫して増加し、令和2年（2020）度は34.7%と高齢化が進んでいます。また、15～64歳、15歳未満は平成2年（1990）以降、一貫して減少しています。

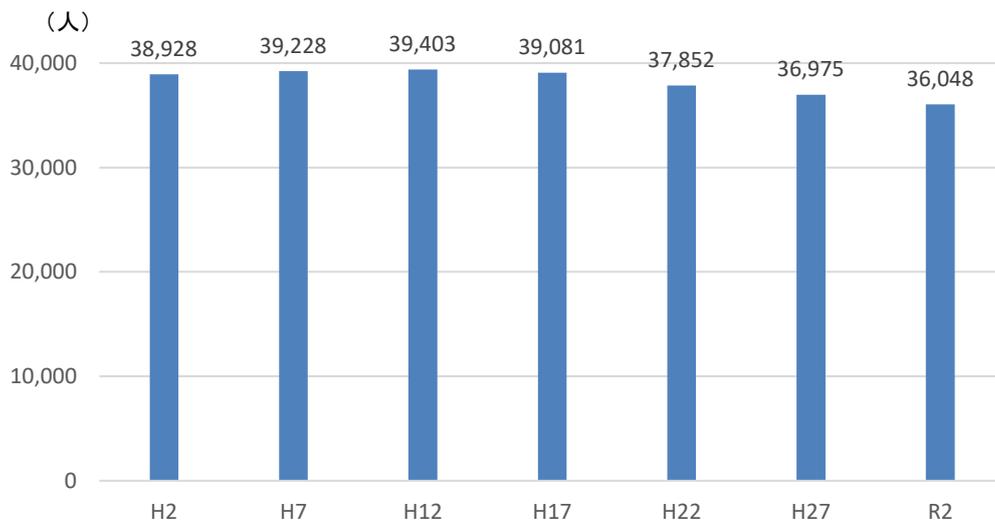


図11 人口の推移

出典：国勢調査

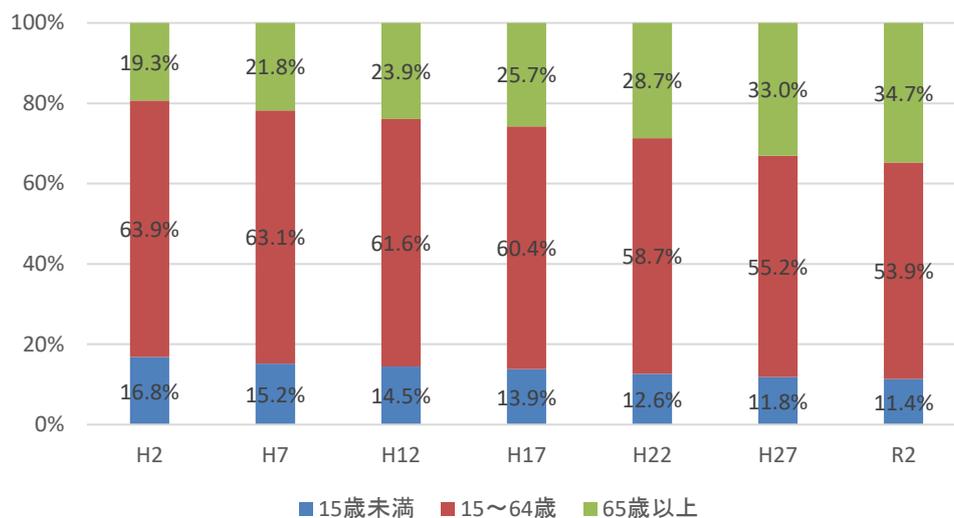


図12 年齢3区分別人口割合の推移

出典：国勢調査

町別の人口は、平成2年(1990)以降、牛窓町は減少、邑久町は微減、長船町は平成17年(2005)にかけて増加し、その後は、おおむね横ばいと町別に特徴が見られます。

また、高齢化率については、令和2年(2020)時点で、牛窓町は46.4%、邑久町は34.3%、長船町は30.0%となり、特に牛窓町での高齢化率が高くなっています。

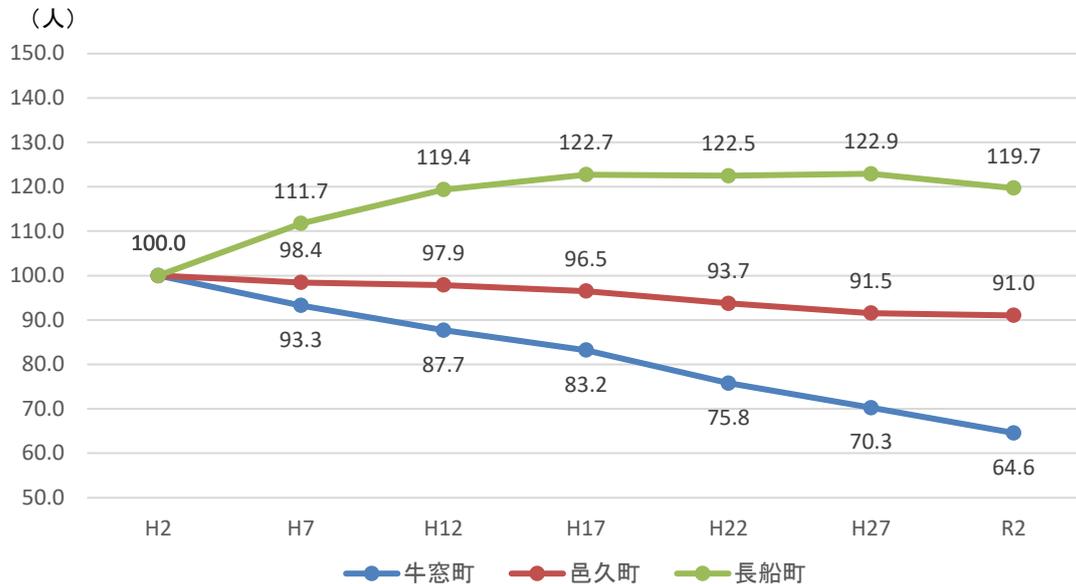


図13 町別の人口増減率

出典：国勢調査

※平成2年(1990)を100とした場合の増減率。

	平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年		
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
瀬戸内市	総人口	38,928		39,228		39,403		39,081		37,852		36,975		36,048	
	15歳未満	6,545	16.8	5,958	15.2	5,710	14.5	5,397	13.9	4,766	12.6	4,350	11.8	4,071	11.4
	15~64歳	24,863	63.9	24,734	63.1	24,268	61.6	23,550	60.4	22,186	58.7	20,291	55.2	19,264	53.9
	65歳以上	7,520	19.3	8,536	21.8	9,421	23.9	10,017	25.7	10,826	28.7	12,151	33.0	12,422	34.7
牛窓町	総人口	8,769		8,180		7,691		7,296		6,644		6,161		5,663	
	15歳未満	1,387	15.8	1,123	13.7	916	11.9	798	10.9	639	9.6	513	8.3	450	8.0
	15~64歳	5,496	62.7	4,952	60.5	4,520	58.8	4,190	57.5	3,595	54.1	3,014	49.0	2,577	45.6
	65歳以上	1,886	21.5	2,105	25.7	2,255	29.3	2,304	31.6	2,409	36.3	2,619	42.6	2,622	46.4
邑久町	総人口	19,928		19,618		19,501		19,230		18,678		18,240		18,140	
	15歳未満	3,199	16.1	2,748	14.0	2,630	13.5	2,515	13.1	2,266	12.2	2,171	12.0	2,114	11.7
	15~64歳	12,689	63.7	12,338	62.9	11,829	60.7	11,367	59.4	10,725	57.5	9,852	54.3	9,742	54.0
	65歳以上	4,040	20.3	4,532	23.1	5,042	25.9	5,267	27.5	5,649	30.3	6,121	33.7	6,180	34.3
長船町	総人口	10,231		11,430		12,211		12,555		12,530		12,574		12,245	
	15歳未満	1,959	19.1	2,087	18.3	2,164	17.7	2,084	16.6	1,861	14.9	1,666	13.3	1,507	12.5
	15~64歳	6,678	65.3	7,444	65.1	7,919	64.9	7,993	63.8	7,866	63.0	7,425	59.4	6,945	57.5
	65歳以上	1,594	15.6	1,899	16.6	2,124	17.4	2,446	19.5	2,768	22.2	3,411	27.3	3,620	30.0

表5 町別の人口推移と3区分別人口

出典：国勢調査

※3区分別人口割合は、総人口から年齢不詳の人口を引いた値に対する、3区分別人口の割合となる。

○人口動態

瀬戸内市の人口の自然動態は、死亡数が出生数を上回る自然減が継続しています。また、出生数も微減傾向にあります。

社会動態は、転入者数と転出者数がほぼ同程度、もしくは転入者数が転出者数を上回る社会増となっています。令和元年（2019）度には、この社会増の値が大きくなっています。

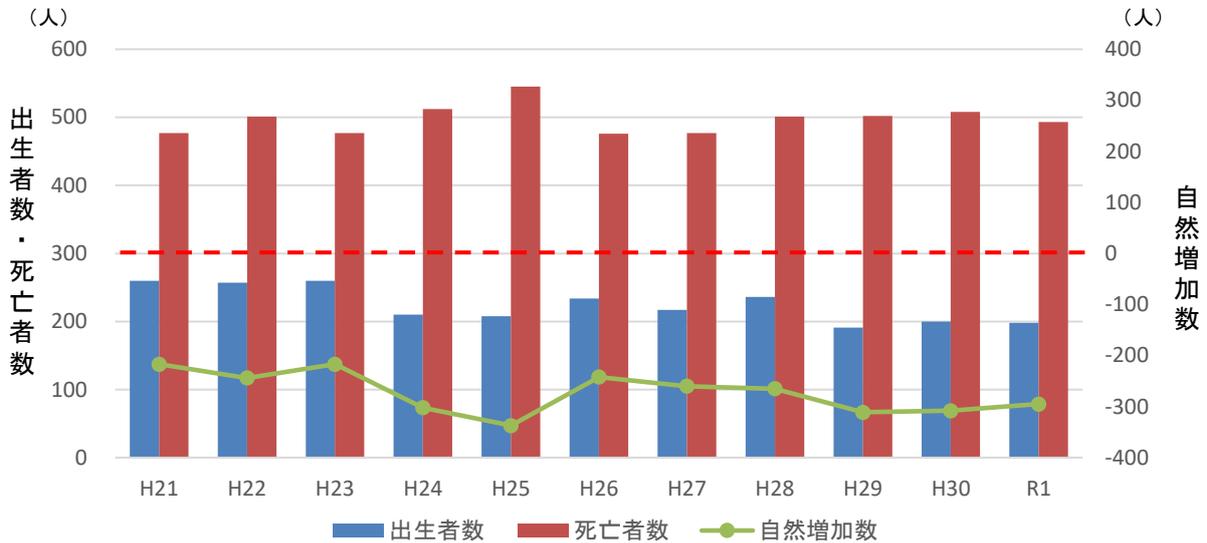


図14 自然動態

出典：住民基本台帳人口

※外国人を含む。
 ※自然増加数は出生者数－死亡者数で算出。

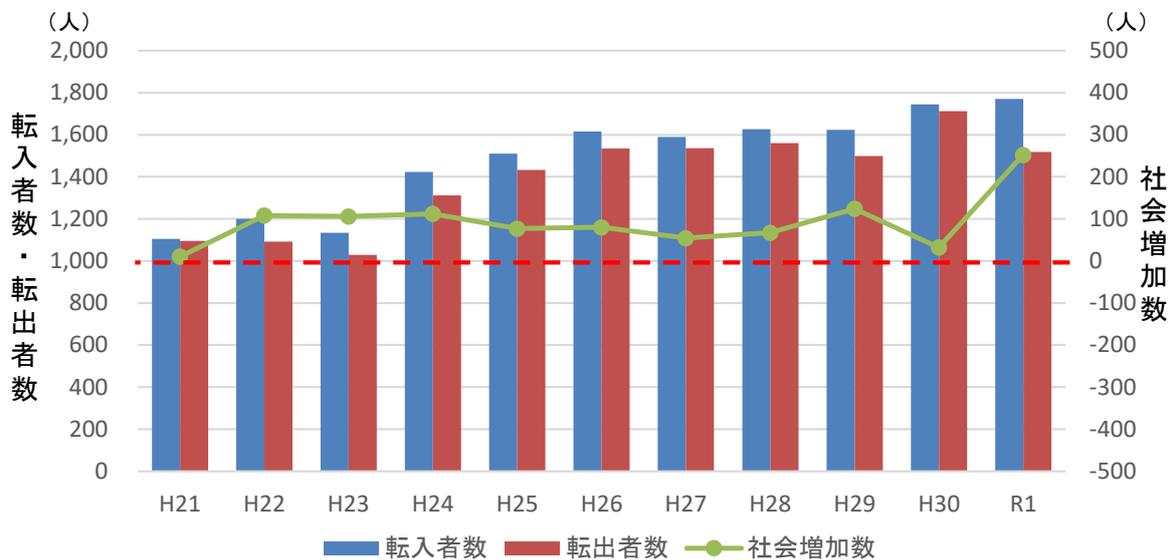


図15 社会動態

出典：住民基本台帳人口

※外国人を含む。
 ※社会増加数は転入者数－転出者数で算出。

○将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所の推計（平成30年（2018）3月推計）によると、2045年には、約3万人まで減少すると予測されています。瀬戸内市人口ビジョンでは、転出抑制や転入促進等に取り組み、2040年において31,000人程度、2060年において27,000人程度を維持することを目指すとしています。

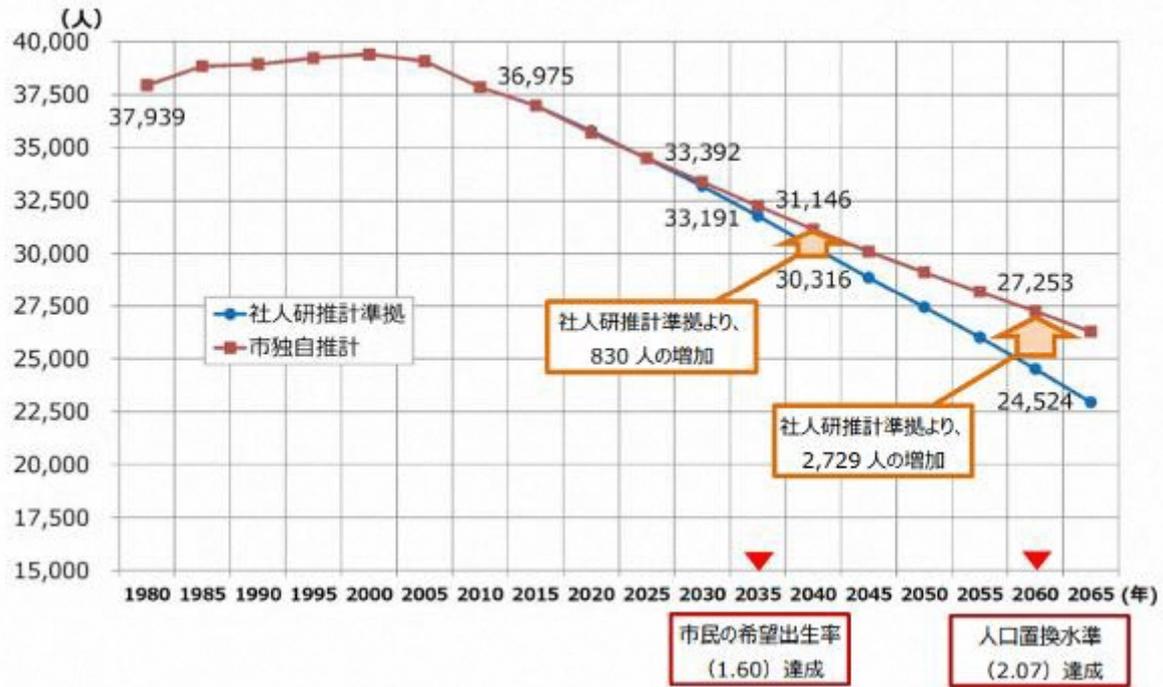


図16 人口将来展望

出典：瀬戸内市人口ビジョン（令和2年（2020）3月）

(2) 土地利用状況

土地利用は、森林や田、その他の農用地の自然的土地利用が多くなっています。建物用地は市の北西部に集まり、山あいには集落が分布しています。

また、本市は、市域全域が都市計画区域外となります。

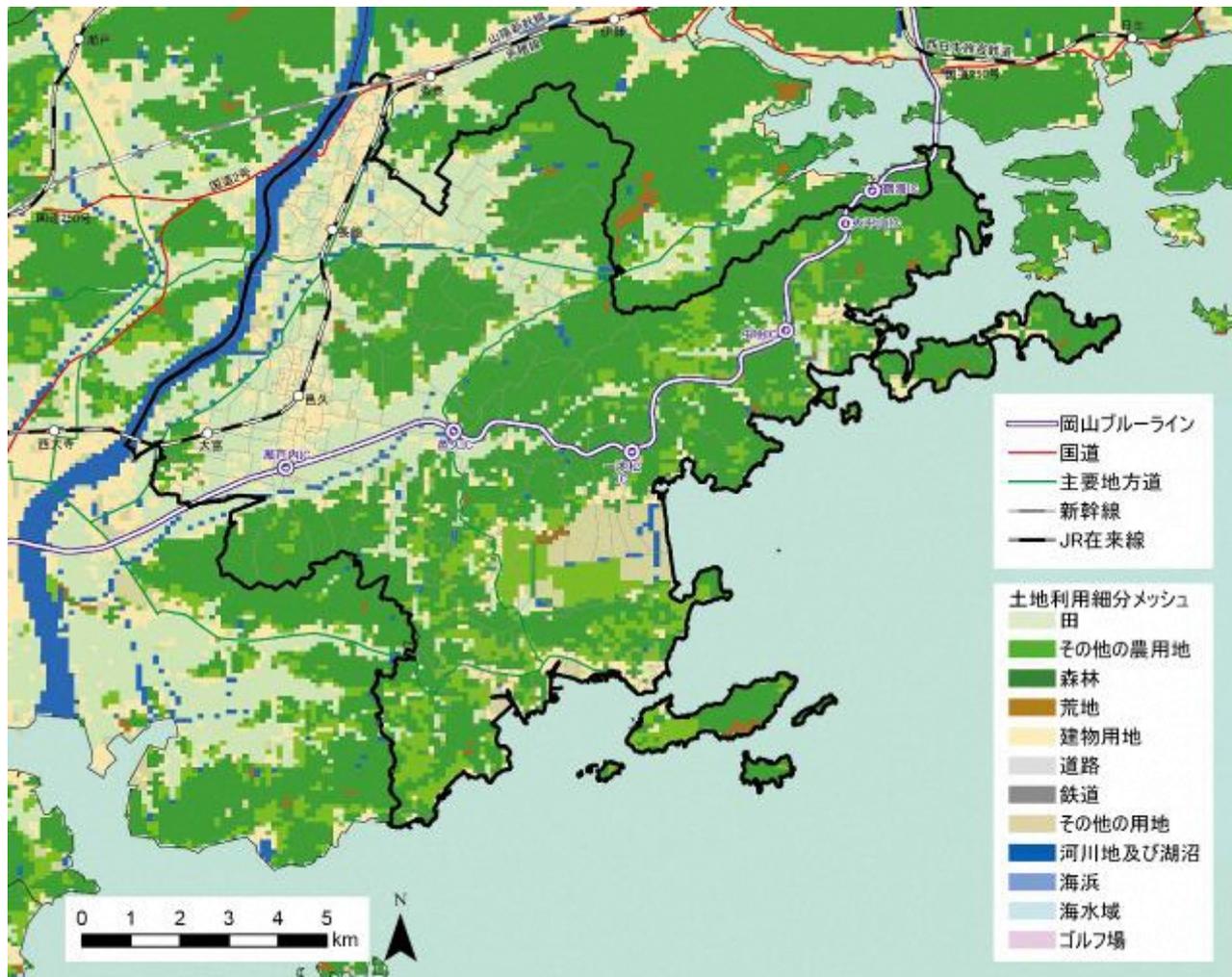


図17 土地利用現況図

出典：国土数値情報（平成28年（2016）度情報）

(3) 交通

広域をつなぐ市の基幹的な交通網として、市中央に岡山ブルーライン、北部に国道2号線が走っています。鉄道では、JR赤穂線が市の北西部を走っており、市内には「大當駅」「邑久駅」「長船駅」が置かれています。

また、本市は岡山市に隣接し、JR山陽新幹線が市の北側を通過し、最も近い新幹線停車駅として岡山駅があります。岡山駅から本市までは電車で約30分、岡山空港から本市までは車で約1時間で行くことができます。



図18 交通網図(広域)

出典：瀬戸内市観光振興計画(平成20年(2008)3月)

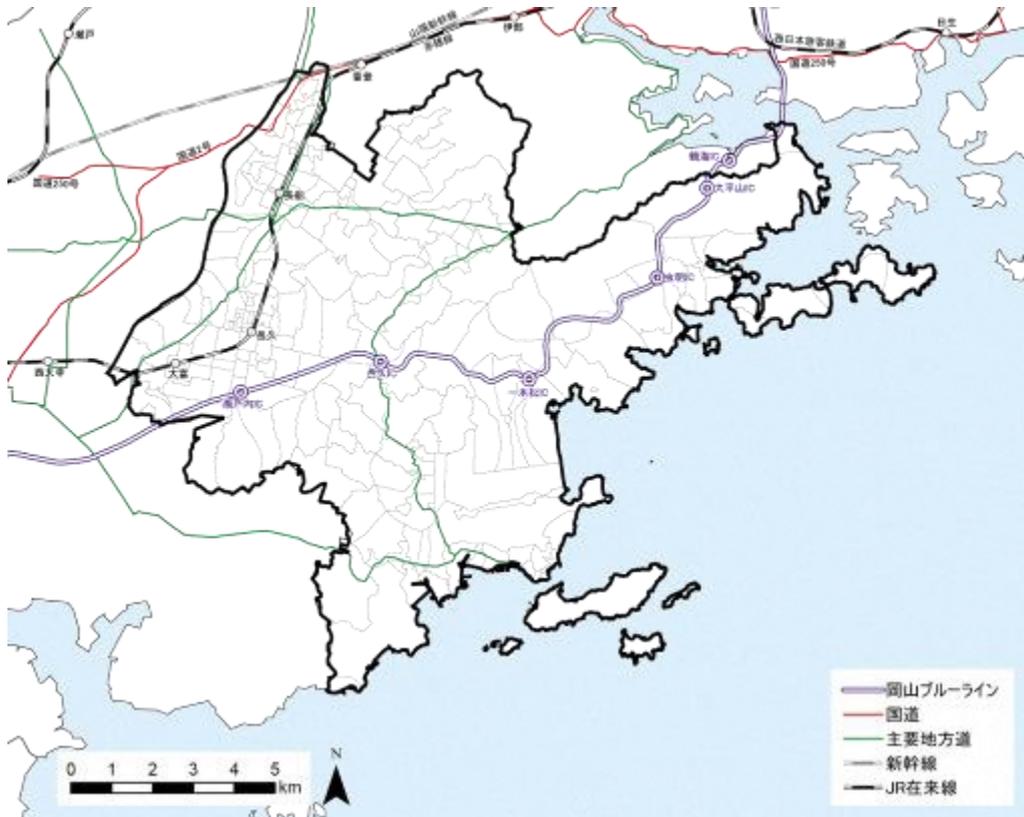


図19 道路網図

出典：国土数値情報(令和2年(2020)情報)

第1章 瀬戸内市の概要

市内に民間及び備前市営による路線バスが7路線、うちスクール便としての機能を有する両備バス上山田線、西脇線を除く5路線は、各集落と交通結節点であるJR駅を結ぶ経路となっています。

また、市営バス6路線が通っています。市営バスの路線は各地域と市中心部にある邑久駅を結ぶ運行ルートを設定しています。

牛窓港からは前島に向かうフェリーが運航しています。

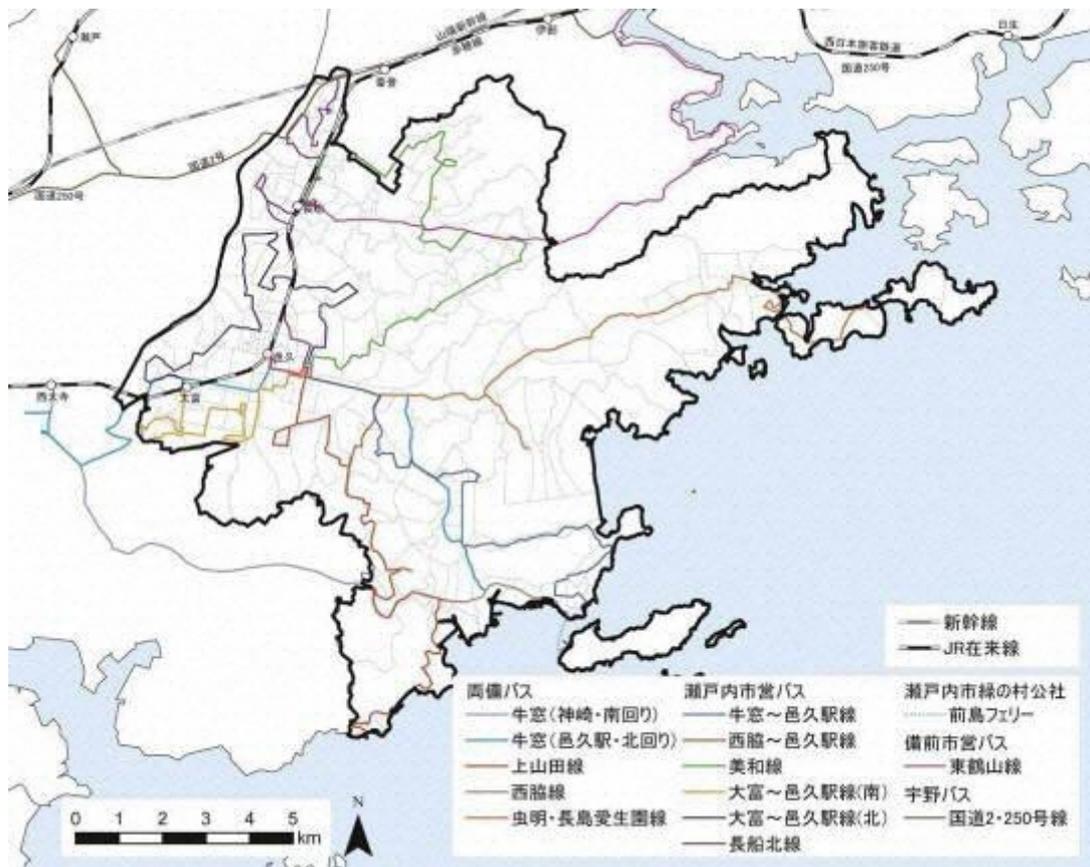


図20 公共交通網図

出典：瀬戸内市公共交通網計画（令和3年（2021）3月）を元に作成

(4) 観光

本市は、港町として栄えた国際都市の面影を今に残すしおまち唐琴通り、朝鮮通信使との文化交流資料を中心に紹介する牛窓海遊文化館、全国的にも珍しい刀剣をテーマにした施設である備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）、かつて中国地方随一の商業都市であった備前福岡の町並み、大正ロマンの詩人である竹久夢二の生家、陶芸体験が可能な寒風陶芸会館など、多様な文化観光資源があります。

また、海浜ではシーカヤックやヨットセーリングなどのマリンレジャーが楽しめます。前島は、江戸時代に大坂城が再建されたときの採石場の跡が残り、周辺は黒島ヴィーナスロード、唐琴の瀬戸の潮流などの特異な景観が現れています。



図 21 観光資源の分布図

出典：瀬戸内市エリアマップ（瀬戸内市観光協会作成）を元に作成

第1章 瀬戸内市の概要



備前おさふね刀剣の里
(備前長船刀剣博物館)



竹久夢二生家



福岡の町並み



寒風陶芸会館



牛窓オリーブ園



黒島ヴィーナスロード

地域別の観光客数を見ると、牛窓地域・邑久地域の観光客数は減少傾向ですが、備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）がある長船地域の観光客数は著しく増加しています。これは、令和元年（2019）度に、国宝「太刀 無銘一文字（山鳥毛）」が約800年ぶりに長船へ里帰りすることになり、備前長船刀剣博物館にて展示が行われたことによる来場者の増加や、令和元年度から食品（菓子等）の卸施設の観光客数を加えたことが要因です。



図 22 町別の観光客数の推移

出典：瀬戸内市公共交通網計画（令和3年（2021）3月）

(5) 産業

○産業

第一次産業就業者数の割合は、年々減少しています。第二次産業就業者割合も減少傾向にありましたが、平成22年(2010)以降増加に転じています。第三次産業割合は年々増加しています。

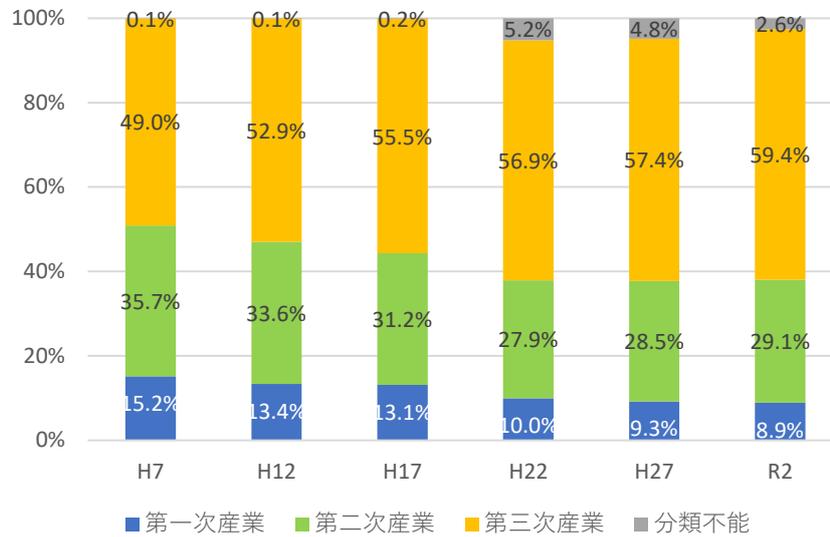


図23 産業大別人口割合の推移

出典：国勢調査

○農業

総農家数、経営耕地面積ともに減少傾向にあり、令和2年（2020）時点で総農家数は1,195戸、経営耕地面積は1,490haとなっています。

作付（栽培）経営体数は、水稲が最も多く、次いで野菜類となっています。

主要な農産物は、牛窓地域では野菜、邑久地域では水稲や果樹、長船地域では水稲や花木などです。

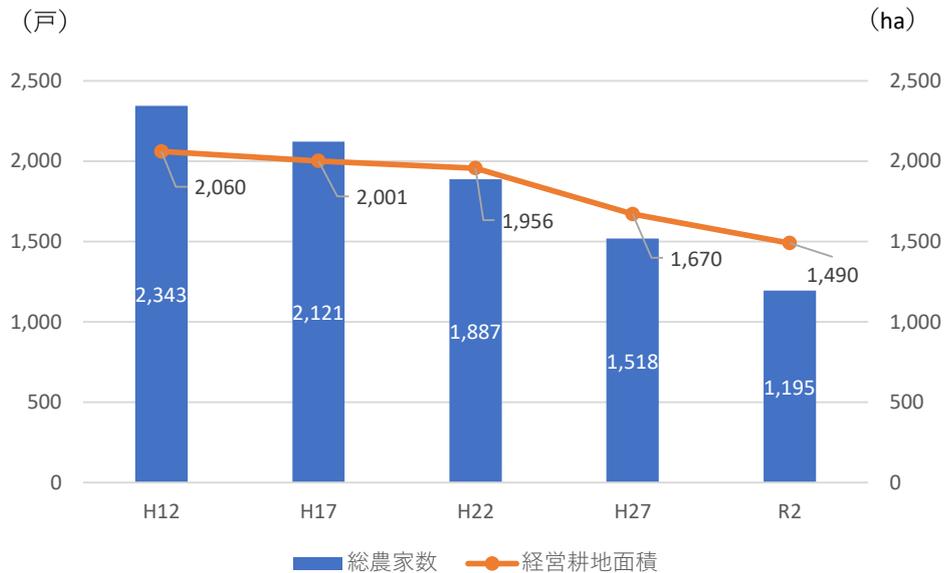


図24 総農家数と経営耕地面積の推移

出典：農林業センサス

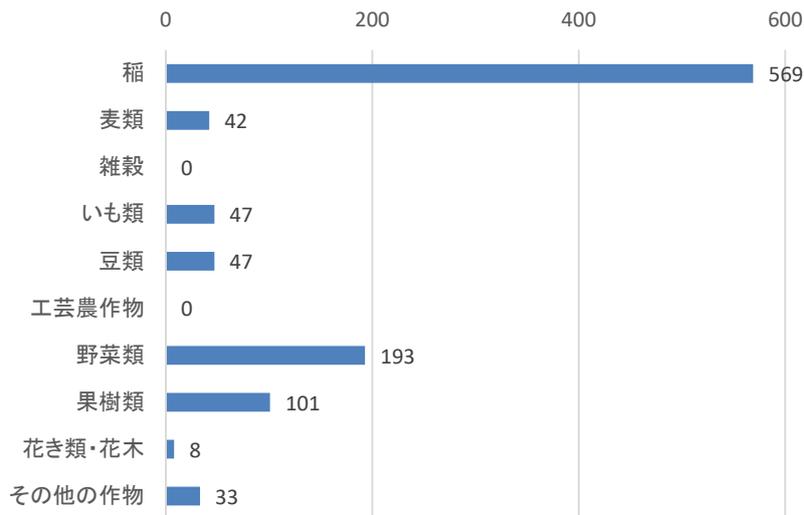


図25 類別作付（栽培）経営体数

出典：農林業センサス（令和2年（2020））

○漁業

種類別の経営体数を見ると、かき類養殖の経営体数が最も多くなっています。牛窓地域ではのりの養殖漁業と魚類が中心であり、邑久地域ではカキの養殖漁業が中心です。このカキについては、近年「虫明カキ」として岡山県内はもとより、関西方面や名古屋方面に出荷されています。

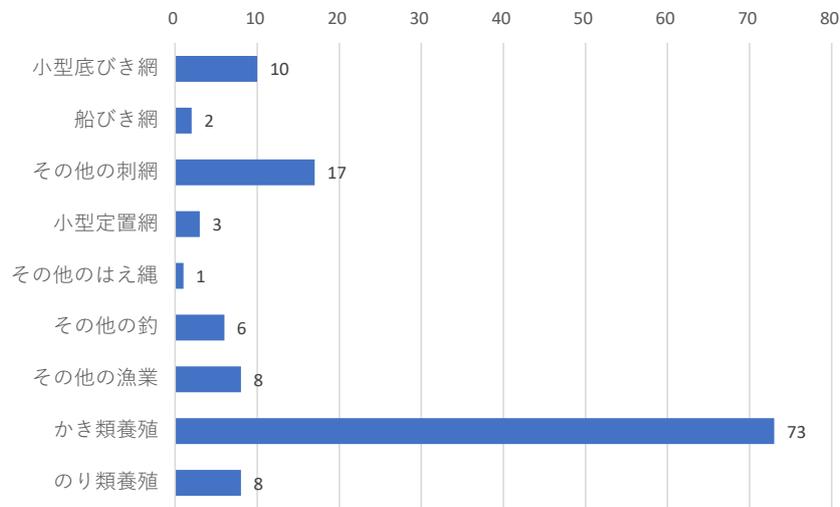


図26 主とする漁業種類別経営体数

出典：漁業センサス（平成30年（2018））

○製造業

事業所数では、食料品製造業、印刷・同関連業が全事業所数の14.7%と多くなっています。また、製造品出荷額等のうち、電子部品・デバイス・電子回路製造業が61.4%と大部分を占めています。次いで食料品製造業が9.9%となっています。

表6 産業分類別製造品出荷額等

産業分類	事業所数	製造品出荷額等（万円）	
		割合	割合
食料品製造業	14	14.7%	2,212,797
飲料・たばこ・飼料製造業	2	2.1%	X
繊維工業	4	4.2%	235,370
木材・木製品製造業（家具を除く）	1	1.1%	X
家具・装備品製造業	4	4.2%	59,992
パルプ・紙・紙加工品製造業	5	5.3%	1,164,329
印刷・同関連業	14	14.7%	605,968
化学工業	5	5.3%	833,089
プラスチック製品製造業	6	6.3%	340,347
ゴム製品製造業	2	2.1%	X
窯業・土石製品製造業	4	4.2%	115,330
鉄鋼業	2	2.1%	X
金属製品製造業	9	9.5%	325,981
はん用機械器具製造業	2	2.1%	X
生産用機械器具製造業	8	8.4%	164,735
業務用機械器具製造業	2	2.1%	X
電子部品・デバイス・電子回路製造業	5	5.3%	13,645,397
電気機械器具製造業	2	2.1%	X
輸送用機械器具製造業	4	4.2%	245,041
製造業計	95	100.0%	22,239,377

出典：令和元年度（2019）工業統計調査

※Xは事業所数が1または2のため、秘匿情報となる。

3. 歴史文化の概要

本市では、黒島貝塚や大橋貝塚、門田貝塚などの遺跡から、先史より人々が集落を形成し、生活が営まれていたことが確認されています。このような人々の生活の中で、中世に多くの人で賑わった備前福岡の市や古代より良港として栄えた牛窓といった山陽道、吉井川、牛窓港などの陸上・水上交通により、「人・モノ・情報」の活発な交流が生まれ、瀬戸内市は多様な文化が交わり、特徴ある歴史文化資源を形成してきました。

市内には錦海湾周辺で行われた土器製塩や、古墳時代には中・四国最大級の須恵器窯跡群である邑久古窯跡群で生産された須恵器、近世岡山藩筆頭家老である伊木家により作られるようになったと言われる虫明焼など、古くから作陶が行われてきました。現在でも寒風陶芸会館では隣接する寒風古窯跡群から出土した須恵器などの展示や、現代作家による作品の展示や販売、一般向けの陶芸体験教室を行っています。

また本市は平安時代末期より福岡地区や長船地区を中心とした刀剣の生産地であり、現在でも備前おさふね刀剣の里として備前長船刀剣博物館での刀剣類の展示、鍛刀場での古式鍛錬の公開を行っています。

牛窓は近世には朝鮮通信使の寄港地に指定され、使節をもてなした本蓮寺や御茶屋跡、通信使関連の資料を紹介する牛窓海遊文化館があります。

以上のように、それぞれの地域ごとに風土に根差した歴史文化資源を有し、それらは現在でも受け継がれています。